

私たちの町の文化財

速報！上代遺跡

■第4話 弓折れ矢尽きる

今回も引き続き上代町遺跡群の発掘調査情報をお届けします。現在発掘している地点では千何百年も前の水路が何本も発見されています。水路からは木の製品や土器、石などが見つかっています。その中の水路の1本からあまりお目にかかれないようなものが発見されました。なんと、この水路の底からは1500年程前の弓と鉄製の矢じりを発見したんです。しかも20cmほどしか離れていないとても近い場所からです。発掘をされていて、弓と鉄製の矢じりというセットは特にお墓の中から見つかります。しかし、それ以外の場所で見える事はほとんどありません。また、水辺で漁をする道具として網や釣り道具を使いあしても、弓と矢じりは使いませんよね。弓だけ、矢じりだけが見つかるのならば壊れたものを水路に捨てただけか？と考えられます。しかしこのふたつがセットで出ているというのは、いったいどういうことなのでしょう。この謎にせまる鍵として、弓と矢じりの周辺からは水辺のお祭りに使われたと考えられる、ミニチュアの土器（おままごとの道具のようにとても小さくて、実用品でないもの）、土製の勾玉などがみつかっています。弓と矢じりも、もしかしたらお祭りに使ったものかもしれませんね。

熊本市文化振興課 入江由真氏

矢じりの折れたもの



弓



古墳時代の頃の弓と鉄製の矢じりが出土されたとは、狩猟か争い事か、もしくは祭事にか？

